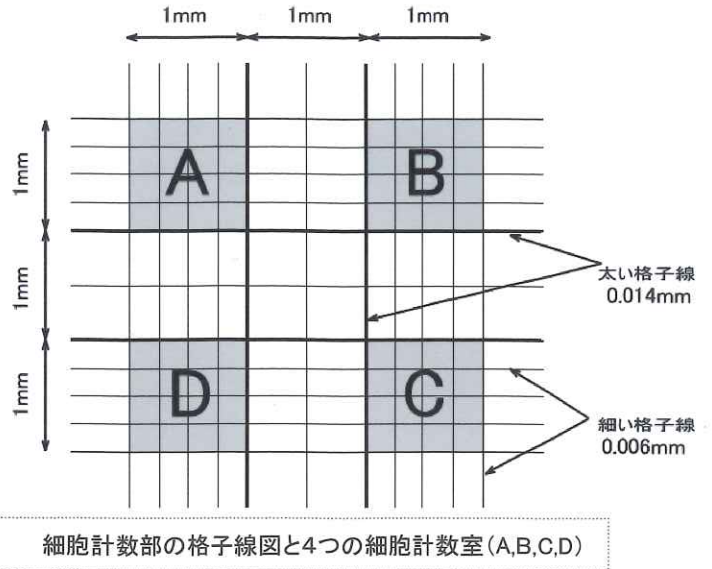
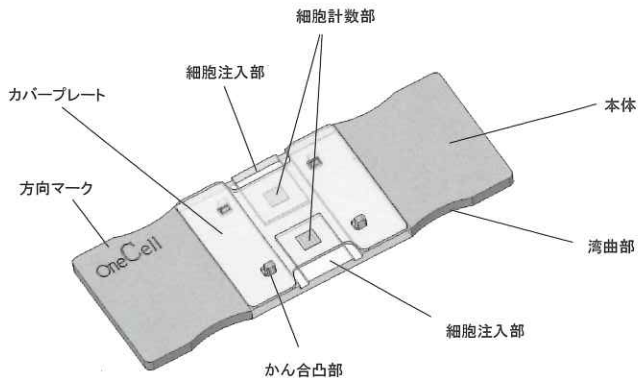


セルカウンター(細胞計数盤) 取扱説明書

構造



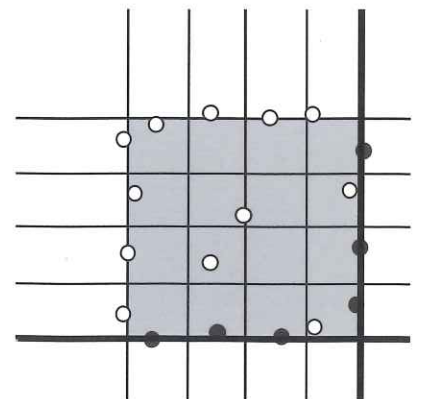
- 本体中央のステージには細胞注入部が2箇所あり、それぞれに細胞計数部があります。
- 細胞計数部のA(左上)、B(右上)、C(右下)、D(左下)の4つのコーナーの正方形を細胞計数室として使います。
- 各細胞計数室の正方形の辺の長さ(太い格子線の中央と、細い格子線の中央との間)は1.00mmあります。
- 細胞計数部での本体とカバープレートとの間は、0.10mmの隙間がありますので、各細胞計数室での容積は、 $1\text{mm} \times 1\text{mm} \times 0.1\text{mm} = 10^{-4}\text{mL}$ となります。

使用方法

- ① 細胞けん濁液を、細胞注入部のどちらにも注入する。
- ② 顕微鏡の対物ステージにセットし、細胞が沈下するのを1-2分ほど待つ。
- ③ 4つの細胞計数室内の細胞を順次、A→B→C→Dの順にカウンターで数えて加算していく。
(*境界線での計数の判定基準は下記を参照してください。)
- ④ 4つの細胞計数室での加算数をNとして、細胞密度を求める。
(細胞密度) = $(N/4) \times 10^4$ 個/mL
(*細胞けん濁液を予め希釈した場合には、希釈倍数をさらに乗じてください。)

使用上の注意

- ① 細胞計数のばらつき防止のため、細胞計数室1室だけの計数ではなく、必ず4室全部を計数して加算値を求めてください。
2つの各細胞注入部で得たNの値を平均すると、より正確な値が得られます。
- ② (境界線での計数の判定基準)
細胞計数室の正方形の4辺上では、細い格子線に乗っている細胞は数え、太い格子線に乗っている細胞は数えないようにします。
細胞計数室Aでの例(右図)を参照してください。
- ③ 生細胞、死細胞の判定のための細胞染色液での細胞計数は、染色液との混和後、20分以内(染色液に敏感な細胞では5分以内)に計数することをお勧めします。
- ④ 細胞けん濁液を注入後長時間放置した場合、細胞計数室に気泡が発生する場合があります。細胞計数室に気泡が発生した場合には、正確な計数ができませんのでご注意ください。
- ⑤ 細胞計数部は特殊表面加工処理しています。一度使用したものは、表面特性が変わるため再使用できません。
- ⑥ 使い残したプレートはジッパーを確実に閉めて密閉保存してください。
細胞検体等の水分の入ったプレートをプラスチック袋に入れなくて下さい。未使用のプレートの特性が変わることがあります。
- ⑦ 本製品は研究用です。



細胞計数室の計数判定基準
○印のものは数える。●印のものは数えない